

トレイルを活用した地域づくりは魅力いっぱい

長野県栄村で信越国境地域づくり交流会開催

長野県栄村で信越国境地域づくり交流会が6月29日にあり、参加してきました。同交流会は2年前からはじまり今回が5回目、「ロングトレイルと地域づくり」をテーマに全国各地から100人近い人たちが集まって、学び、交流しました。

基調講演は北海道大学特認教授の木村宏さんの「歩く観光の潮流とロングトレイル」と題して軽快なテンポでトレイルの魅力を語りました。トレイル（山の小道）といえは、信越トレイルしか知らない私にとっては驚きの連続でした。日本全国に、世界に広まっているんですね、トレイルは。関連する本がたくさん出ていることも初めて知りました。トレイルを歩く人の思いは様々ですが、これが地域を見つめるきっかけになり、交流が生まれていく、関連する生業もある、よくわかる講演でした。講演の中で考えたのは、私が日頃楽しんでいる里山歩きの価値

の大きさです。花や木を観察するだけのものですが、私の暮らしにとって大事な意味があることを再発見する講演となりました。

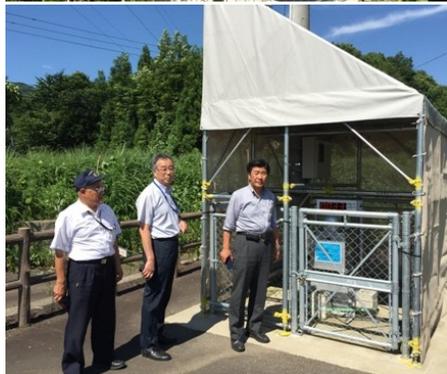
講演に続くパネルトークでは、信越トレイルなど4つのトレイルの代表がそれぞれのトレイルの特徴と魅力を語りました。私が惹かれた話のひとつは雪国観光圏の「スノーカントリートレイル」の紹介です。雪の白が創り出す世界の魅力のすごさを改めて感じました。上越での取り組みのヒントとなる話がいくつもありましたね。

第2部の懇親会にも参加してきました。森宮野原駅舎で飲み食いできると



はびっくりでした。絵手紙がいろいろの駅舎の一角で飲み食いする、交流する、いいもんですね。名刺を忘れたこともあって、私は挨拶回りはほとんどしなかったのですが、上越市からの参加者、信濃毎日のS記者や新潟日報のT記者、津南町のOさんなどとゆっくり話ができました。

はびっくりでした。絵手紙がいろいろの駅舎の一角で飲み食いする、交流する、いいもんですね。名刺を忘れたこともあって、私は挨拶回りはほとんどしなかったのですが、上越市からの参加者、信濃毎日のS記者や新潟日報のT記者、津南町のOさんなどとゆっくり話ができました。



上は柿崎区雁海。下は柿崎川ダム付近

今年度設置のものはずいぶん放線量を測定中ですが、雁海区民会館脇など4か所はすべてカバーがかかりっぱなしでした。電光表示はまったく見えないのです。カバーをとれない理由があるなら、それなりの説明板を

現地に立てておくべきだと思いました。

モニタリングポストが設置してある場所の多くは多雪地帯であり、雪対策が必要ですが、柿崎川ダムの近くに設置してあるものは、大雪を想定した

困りがされていました。でも水野町内会にあるもの、柿崎地区公民館黒川分館敷地内のも、吉川スカイトピア遊ランド敷地内のもはそういう困りはありませんでした。今後、関係機関に働きかけます。

共産党市議団がモニタリングポスト調査

日本共産党上越市議団は2日、市内に設置されている14か所のモニタリングポストのうち、柿崎区内の全部と吉川区内1か所（合計8か所）を見て回りました。平良木前



【ヨツバヒヨドリ】キク科の多年草。漢字で「四葉鶉」と書きます。ヒヨドリバナの近くで白い花を咲かせていました。花は赤紫色のものも。花期は7月～9月。花言葉は「清楚」。

はしづめ法一の活動レポート

No.1865 2018.7.8

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五一三回

キュウリグサ

野の花のことです。私は、ひとたび名前や花の形のことなどで気になったら、どんなことがあるかと、わかるまでじつとしていられないのです。

先日、上越市安塚区の菱ヶ岳の山腹を通る国道403号線ルートで信越国境を越え、長野県入りしたときもそうでした。

この日は梅雨時にもかかわらず真夏を思わせるような快晴で、山も空も素晴らしい景色をつくりだしていました。菱ヶ岳のそばには真つ白な雲があつて、山頂はそれよりも高い位置に見えます。じつに堂々としていました。

そして野に咲く花がまた美しかった。私の大好きな野の花のひとつ、コシジシモツケソウはまだ盛りでした。あちこちにピンク色のふわっとした花を咲かせていました。その近くでは、トリアシシヨウマも白い花を広げていました。一番多くの花を見せてくれたのはエゾアジサイです。青い花をいっぱい咲かせていました。新潟県側は「エゾアジサイロード」と言ってもよいくらいに咲きぶりでしたね。

キューピットバレイスキーマ場脇を通り過ぎて五分くらい車を走らせたところだっと思ひます。エゾアジサイのそばにピンク色のヤマアジサイを見つけたのは……。それも、一輪だけ咲いていたのです。その美しさに興奮し、何度もカメラのシャッターを切りました。ピンク色のヤマアジサイと出合ったのは十数年前に尾神岳で出合つて以来のことでした。

ここで写真を撮っていたとき、私の足元で薄い空色の小さな花を咲かせている草がありました。草丈は二〇センチほどです。沢水が出ているところなので、サワハコベに違いないと勝手に判断、写真だけ撮つて、詳しく調べることなく車に乗り込みました。翌日の朝、ブログ(日記)を書いてから改めてこの小さな花の写真を見て、ふと思ひました。「サワハコベの花は白はず。花の形もハコベとは違つて、ルリソウとそっくりだ。その仲間ではないか」と。インターネットや図鑑で調べても結論は出せませんでした。こうなつたら、もう一度現地で確認してくるしかない。そう思つて行動したのは次の日曜日の午後です。菱ヶ岳に行く前に植物に詳しいKさんといひ、私の撮つた写真を見せてもらひました。Kさんはキュウリグサかも知れないと言われましたが、ヤマルリソウの可能性も否定されませんでした。

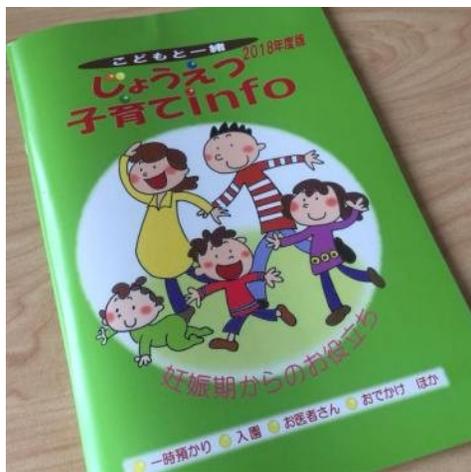
国道403号線を走り、現地に着いたのは午後四時半過ぎです。ヤマアジサイの咲いていた場所を目印に探したので、探すには余り時間がかかりませんでした。ルリソウのような花の形をした植物は、思つていた以上に広がつていて、道路にもありました。物差しで測つたら、花の直径は約三ミリ。下方についている葉の大きさは幅一・五センチ、長さ三センチほど。花は穂のようになつていくつも付いていました。ヤマルリソウとは明らかに違ひました。

菱ヶ岳からの帰り道、Kさんに再び説明し確認したところ、探し続けた花の名前は間違ひなくキュウリグサでした。穂のような花のつき方が決め手になりました。花言葉は、「愛しい人への真実の愛」。薄い空色の花は美しく、私はミクロレンズで撮つた写真を毎日のように見えています。

今年も子育てハンドブック発行

好評の子育てハンドブック、「じょうえつ子育てinfo」2018年度版がこのほど発行されました。

出産前後の子育て支援制度からはじまつて、子どもが病気の時、どうしたらいいか。保育園はどこにあり、入園の手続きはどうしたらいいのかなど子育てに必要な情報が満載です。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月27日(水)	7月4日(水)
上越南消防署	0.040	0.047
上越北消防署	0.047	0.050
新井消防署	0.047	0.043
頸北消防署	0.040	0.057
頸南消防署	0.060	0.053
東頸消防署	0.040	0.043
高士分遣所	0.050	0.050
名立分遣所	0.050	0.050

山口逸郎さんの話に感動

6月29日、午前9時から新水族館近くの公園で、上越市での平和行進スタート集会がありました。

9時とはいつても猛烈に暑く、日陰を探したくなりました。

コース通し行進者の山口逸郎さん(映画プロデューサー)は、「千羽鶴」「広島証人」などの映画づくりを通じて、原水爆の恐ろしさ、差別などを訴えてきたことを語りました。また、先日、加茂市を訪問したときのことも話されました。庁舎内を移動するとき、市長さんが一緒に

行進してくれたというのです。感動と驚きの声があがりました。

この集会で私は、先の定例議会において核兵器禁止条約の批准を求める請願が全会一致で採択されたことを報告しました。

